

埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News



基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使 命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- (1) ひとりひとりが大切にされる権利 (2) 安心して質の高い医療を受ける権利 (3) ご自身の希望を述べる権利
(4) 納得できるまで説明を聞く権利 (5) 医療内容をご自身で決める権利 (6) プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利：(1) ひとりの人間として尊重される権利

- (2) 質の高いおもいやりのある安心安全な医療を受ける権利
(3) 年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利
*子どもさんとご家族が、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで説明を受ける権利
(4) ご自身で希望を述べる権利
*子どもさんとご家族が、ご自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利
(5) 自己決定の権利
*子どもさんとご家族が、自らの意思に基づいて医療内容を選択あるいは拒否する権利
(6) プライバシーを守られる権利

患者支援センターにおける退院支援の現状

患者支援センター 看護師長 平山 和枝

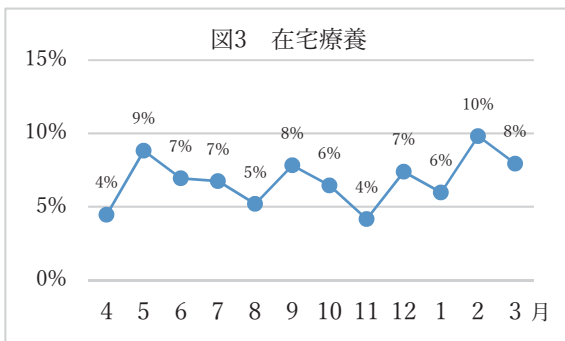
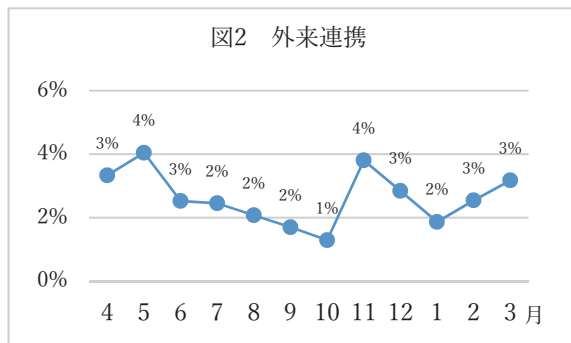
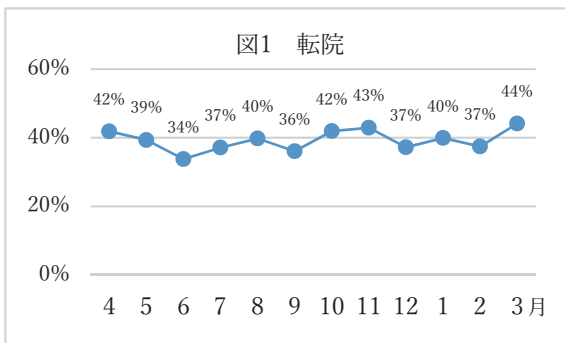
患者支援センターには14名の退院支援業務に専従する看護師が在籍しています。担当部署において、患者さんと家族が退院後の療養生活を自分達で選ぶことができるように、思いを丁寧に聴きながら必要な情報を提供し、退院後も医療・看護・介護を継続できるように支援しています。

また、患者さんや家族と相談し各種制度・地域医療・福祉サービスの調整を行っています。2020年度の状況を下記に示しました。退院支援計画書を作成した、退院困難な要因を有する患者さんの約40%が、療養を継続するために、状態に応じた病床機能を有する病院へ転院となりました(図1)。また、遠方から来られた患者さんには他病院への外来連携を行いました(図2)。コロナ禍における面会制限が影響してか、

がんの患者さんにおいては在宅療養を希望される事例が増えています。2020年度は退院支援計画書を作成した患者さんの7%が在宅療養に移行しました(図3)。在宅療養に際しては、地域包括ケアシステムに基づき、患者さんの状態に合わせて訪問診療医や訪問看護師の方々と、共同カンファレンスを開催し医療連携を行っています。また介護・福祉などのサービスといった社会資源の活用をケアマネージャーなど関係者と連携し調整しています。

これからも患者さんが安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、地域の医療機関の皆さまや関係者の皆さまと、細やかな連携を図っていきたく思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2020年度 退院支援計画書作成数に占める転院・外来連携・在宅療養の状況



形成外科の紹介

形成外科 診療部長 去川 俊二

顔の障害、四肢のひきつれなどの問題は、当科にご紹介ください。

顔の障害といえば、外傷やがん治療後の変形、膠原病や変性疾患による委縮、顔面神経麻痺、眼瞼下垂などがありますし、クルーズン病や鰓弓症候群などの先天的な顔貌障害もあります。四肢のひきつれや体幹の異常は、乳がん後の乳房欠損や熱傷後の癍痕拘縮などがあります。

これらは、生命をかけた大病の治療後だから、事故みたいなものだから、などと放置される、もしくはたとえ前向きであっても我慢し続けていることも少なくありません。そもそも、治療可能なかどうかとも考えられていないことがあります。

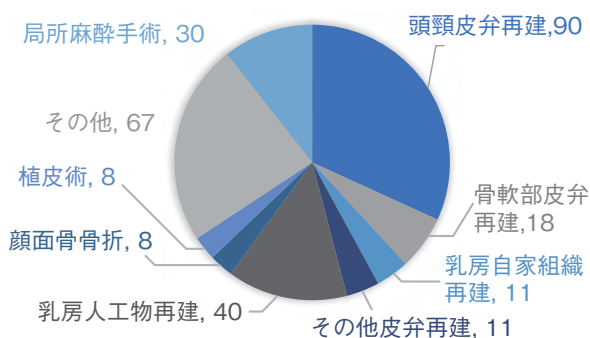
国際医療センターはがん、心臓、救急の3本柱を中心とした医療を行っていますが、その中で形成外科は、がん切除後の再建、顔面外傷などを担当しております。多くは腹部や肩甲骨な

どの遊離組織移植を行う症例で、高度な変形に対する移植や骨切り術などは普段から行っております（図1）。しかし、これらの手術に慣れ親しんでいるからこそその危険性も経験しており、可能であればより簡便で効率的な治療法を日々考えてもおり、また、自費診療が必要な場合など、当科で対応が十分でない場合は積極的に他院に紹介もしております。

これまでは関連施設外からの直接の紹介はほとんどありませんでしたが、当院での診療が評価されつつあり、あごの骨の欠損や骨髄炎などは圏外からの紹介も増えています（表1）。また、診療にあたるスタッフも現在5人に増えました。

これまで地域連携医療機関の方々が紹介していただいた患者さんの治療を院内でサポートしてきたことで得られた技術を、これからは直接還元できればと願っております。迷う症例でもぜひご紹介ください。（表2）

図1 2021年度 手術件数（全283件）



形成外科手術の様子

表1 年度別紹介患者数
（院内他科・当科関連施設からの紹介を除く）

	2018	2019	2020	2021
乳房	2	1	1	0
顎骨障害	0	2	3	5
顔面変形・顔麻痺	0	1	0	1
顔面腫瘍	1	1	0	2
四肢障害	0	0	1	1
顔面骨折	0	0	0	2

表2 初診担当医表

曜日	担当医	専門領域
月	去川	顔面変形、顎骨障害
水午前	木村	顔面神経麻痺、四肢障害
木午後	横川	乳房

臨時休診日もございますので、電話予約をお願いします。

第 88 回埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携懇話会が開催されました

令和 4 年 3 月 16 日（水）19 時 10 分より、地域医療連携懇話会が Web にて開催されました。令和元年 12 月に開催されたのを最後に延期となっていました。今回 Web での開催となりました。

今回は『免疫チェックポイント阻害薬』に関

して、呼吸器内科 山口先生と、内分泌・糖尿病内科 栗原先生にご講演いただきました。お忙しい中ご視聴いただいた皆様、ありがとうございました。次回の開催日程は決定次第ご案内いたします。



第 88 回埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携懇話会プログラム

日時：2022 年 3 月 16 日（水） 19:10～20:30

司会進行：呼吸器内科 教授 各務 博 先生

【開会の辞】

病院長 佐伯 俊昭 先生

一般講演.

「免疫チェックポイント阻害薬による肺臓炎に関する最新の見解」

呼吸器内科 講師 山口 央 先生

特別講演.

「症例から考える免疫チェックポイント阻害薬における内分泌代謝障害のマネージメント」

埼玉医科大学国際医療センター 内分泌・糖尿病内科 准教授

埼玉医科大学病院 内分泌・糖尿病内科 准教授

栗原 進 先生

【閉会の辞】

地域医療連携室 室長 真下 由美 先生

新任診療部長・教授のご紹介

新任診療部長のご挨拶



なかの しんじろう
中埜 信太郎

診療科：心臓内科 教授
専門分野：循環器病学一般、虚血性心疾患、成人先天性心疾患、
カテーテルインターベンション、重症心不全・心筋症、救急医療

埼玉医科大学国際医療センター心臓内科に赴任いたしましたのは2011年、忘れもしない東日本大震災の直後です。それから10年余りの時間、当院で臨床・研究に従事して参りました（2016年～2017年は内閣官房参事官補佐に就いたため出向）。

当科では救急疾患（急性心不全、心筋梗塞・狭心症等）、弁膜症（ミトラクリップ等）、不整脈治療（アブレーション、植え込み型デバイス等）、経食道エコーなど、高度な循環器診療を日常的に行っています。院内他部門との連携を含めるとさらに、心移植、心血管イメージング、大動脈疾患診療、心臓-脳連関、心-腎連関、腫瘍循環器、成人先天性心疾患など、診療できる領域のラインナップは国内最高峰です。

“すべての循環器診療に対応できる施設”であることを誇りに感じ日々診療をしております。ご期待に応えられるよう精進します。

新任診療部長のご挨拶



えびはら やすひろ
蝦原 康宏

診療科：頭頸部腫瘍科 教授
専門分野：頭頸部癌 外科治療

令和4年4月より頭頸部腫瘍科診療部長を務めます、蝦原康宏と申します。国際医療センターに赴任して8年目となります。当科では頭頸部がんに対して、手術治療・抗がん剤治療・放射線治療を行っております。具体的には、舌がんをはじめとする口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がんなどとなります。当科中平教授、山崎教授、医局員ともども、当院を選んでいただいた地域の患者さまへ、より良い医療を迅速に提供し、貢献できればと存じます。今後とも頭頸部がん患者様のご紹介をどうぞよろしくお願い申し上げます。



新任診療部長のご挨拶



みしま かずひこ
三島 一彦

診療科：脳脊髄腫瘍科 教授

専門分野：悪性脳腫瘍の集学的治療、良性脳腫瘍、頭蓋底腫瘍

令和4年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科 診療部長を拝命いたしました三島一彦です。地域の先生方におかれましては、日頃より多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。当科では悪性脳腫瘍の集学的治療、良性腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫、頭蓋咽頭腫、下垂体腫瘍など）、脊髄腫瘍の手術、小児腫瘍科と協力し小児脳腫瘍の集学的治療など、幅広く脳・脊髄腫瘍の治療を行っております。また先進的な臨床試験に参加し、新しい治療法を積極的に取り入れております。地域の先生方と患者さんのお役にたてるようスタッフ一同精一杯努力してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



こじま たくろう
小島 拓朗

診療科：小児心臓科 准教授

専門分野：カテーテル治療、心不全治療

2022年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター小児心臓科診療部長を拝命致しました。

私は2010年に埼玉医科大学国際医療センターに赴任し、先天性心疾患の診療に従事してまいりました。当科は、先天性心疾患に対する診断・カテーテル治療はもとより、小児の重症心不全に対する補助人工心臓による管理や、不整脈に対するカテーテルアブレーションなど、あらゆる小児心疾患に対応しております。また、当院の心臓内科とも連携し、成人先天性心疾患の診療にも力を入れております。

小児・成人問わず、先天性心疾患の患者さんがおられましたら、ぜひ当科にご紹介頂きたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。

新任教授のご挨拶



ひろなか しゅういち
廣中 秀一

診療科：腫瘍内科・消化器腫瘍科 教授

専門分野：消化器がん薬物療法（主に上部消化管）

令和4年1月1日付けで埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科・消化器腫瘍科教授を拝命致しました。

当科は、主に食道癌、胃癌、胆管癌、膵癌、大腸癌などの消化器癌を中心に化学療法を行っており、私は特に食道癌や胃癌の化学療法（化学放射線療法）を中心に診療しております。

当科は、治験や臨床試験にも力を入れておりますので、臨床試験の参加を希望される患者さんがいらっしゃいましたら是非御紹介頂きますと幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



よしだ ひろゆき
吉田 裕之

診療科：婦人科腫瘍科 教授
専門分野：婦人科腫瘍学、遺伝性腫瘍学

令和4年2月1日付で、埼玉医科大学国際医療センター婦人科腫瘍科教授を拝命いたしました。

私は平成8年に大阪市立大学医学部を卒業し同大学産科婦人科学教室に入局、その後は一貫して婦人科悪性腫瘍の診療に携わって参りました。その後、平成25年4月からは婦人科悪性腫瘍症例数が全国でも有数である当院婦人科腫瘍科に赴任いたしました。

当科は本邦でも初の「婦人科腫瘍科」を標榜した診療科で、主に子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性疾患の治療を行っております。該当する症例がございましたら、ぜひ当科へご紹介ください。今後ともよろしく願いいたします。

新任教授のご挨拶



せき まさふみ
関 雅文

診療科：感染症科・感染制御科 教授
専門分野：ウイルス感染症、呼吸器感染症、日和見・耐性菌感染症

令和4年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター感染症科・感染制御科教授を拝命しました。

私は平成6年に長崎大学を卒業し、大阪大学や東北医科薬科大学を経てこちらへ赴任いたしました。長らく感染症診療・感染制御活動全般に関わって参りましたので、現在大きな問題となっている新型コロナウイルス感染症診療、感染対策から貢献できるように最大限尽力していく所存です。

また他の感染症対応に関してもコンサルテーションを中心に、主科の先生方の診療を全力でサポート致します。ぜひ何かとお声かけください。どうぞこれから宜しく願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



あらい たかひで
荒井 隆秀

診療科：心臓内科 教授
専門分野：循環器病学一般、虚血性心疾患、カテーテルインターベンション

令和4年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター心臓内科教授を拝命致しました荒井隆秀（あらいたかひで）と申します。平成14年に慶應義塾大学医学部を卒業し、循環器内科医として研鑽を積んで参りました。主に虚血性心疾患並びに心臓弁膜症などの構造的な心疾患に対するカテーテル治療に従事してきました。

構造的な心疾患のカテーテル治療は大動脈弁狭窄症に対する経カテーテルの大動脈弁留置術、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁修復術など近年急速に進歩している分野となります。このような患者様がいらっしゃいましたら、お気軽にお問い合わせ頂ければ幸いです。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

当院は予約制です 下記の方法でご予約ください

① 患者さんからの電話予約

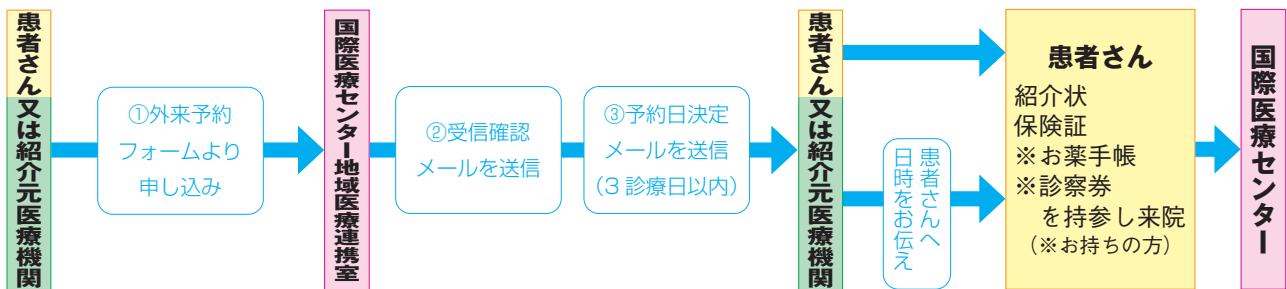


② 医療機関からの電話予約



③ インターネットからの予約 (初診専用)

紹介状は患者さんへお渡してください。



Organization Accredited
by Joint Commission International



インターネット
予約入力フォームは
こちらから



埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News (第25号)

編集・発行：埼玉医科大学国際医療センター
地域医療連携室

編集責任者：真下 由美
発行責任者：佐伯 俊昭

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

TEL：042-984-4433

FAX：042-984-4740

発行日：2022年6月1日

URL：https://www.international.saitama-med.ac.jp